

特許検索競技大会

— 特許検索競技大会2017最優秀賞受賞者 特別寄稿 —
優秀なサーチャーを目指して



2018年8月

IPCC

— 一般財団法人 工業所有権協力センター —
Industrial Property Cooperation Center

優秀なサーチャーを目指して

特許検索競技大会2017 最優秀賞受賞者 角淵 由英

1. はじめに～基本を大切に～

「特許調査スキル」の向上は、日々の業務を通じて達成されるものであって、突然スキルが飛躍的に向上することはありません。また、どんなに優秀なサーチャーでも、最初は初心者であり、OJTを通じた指導やフィードバックを受けてスキルを磨いてきたはずです。

私の場合、サーチャー専任時代から通算して、1000件以上の案件の調査を行い、100人以上のサーチャーと接し、他人の検索式も数百件以上見てきました。その中で気付いたのですが、優秀なサーチャーほど、基本に忠実であり、基本を大切にしています。基本を守りつつ、個別の案件に応じて柔軟にアレンジをすることが重要であり、基本ができて初めて応用やテクニックの意味が出てきます。

では、特許調査における「基本」とは何でしょうか？特許調査の「基本」は、特許検索競技大会の問題に網羅されています。

2. 特許調査の基本

2.1. 検索式の作成

特許調査の基本として、検索式の作成があります。全ての調査の基本となる検索式ですが、「検索式を作るのは難しい！」と感じている方が多いのではないのでしょうか？私自身も、調査の仕事を始めたときには、検索式は暗号のようで、曖昧模糊として実態が良くわかりませんでした。

検索式の作成に関する「基本」は、特許検索競技大会の間2に凝縮されています[※1]。以下、調査の基本的な手順を確認します。

(1) 発明の正確な理解

調査対象となる発明を正確に理解し、構成要素(構成要件)を決定します。調査の種別によっては、対象製品や対象技術の特定をすることになります。

(2) 予備検索の実行

低ノイズで網羅的な検索式を作成するために、予備検索を行い、特許分類(FI、Fタームなど)、キーワードの同義語を検討します。技術の進歩の流れを抑えることも大切なポイントです。

(3) 検索戦略立案、検索式作成

検索式に使用する特許分類、キーワードの抽出を行います。このとき、多観点から検索式の検討を行い、検索漏れを防止することが大切です。同じ構成要素は足し合わせ、異なる構成要素は掛け合わせるといった基本も忘れてはいけません。

検索式には、絶対的な正解はありませんが、調査の課題・目的に応じた最適解は存在します。基本を大切にし、調査の課題・目的に応じて、調査範囲を広くしたり狭くしたりアレンジします。

(4) 検索実行、スクリーニング

構成要素の優先順位を決め、効率的にスクリーニングを行います。このとき、「こんな文献がありそうだ」と、文献を想定した上で、スクリーニングをすることが大切です。

スクリーニングの結果に応じて、調査の課題が解決し、調査の目的を達成したかを確認し、必要であれば検索戦略を再検討します。

上記の(1)～(4)の手順を正確かつ丁寧に繰り返すことが大切です。

そして、「調査報告書を作成して終了」ではなく、調査結果に対するフィードバックを受けたり、調査対象の案件がどうなったのか、経過情報等を確認したりすることで、見直しを行って、次の調査に活かすことがスキルアップにつながります。

2.2. 進歩性と外国文献検索

サーチャーに求められる基本スキルとして、進歩性と外国文献検索があります。

(1) 進歩性

無効資料調査や先行技術調査では、新規性よりも、進歩性が問題となることが多いかと思えます。進歩性を考慮した検索は、主引例と副引例として何を探し出すのか、如何に論理付けを行うのかを検討する必要があるため、難易度が高いですが、サーチャーとして必須のスキルです。

特許検索競技大会2017の間1では、進歩性に関する問題が出題されました。ぼんやりと分かったつもりでいた進歩性について、正確・丁寧に検討をすると、奥が深く難しいと感じた方が多かったように見受けられます。

進歩性の判断フローでは、本願発明の認定、主引用発明の認定、対比による一致点・相違点の認定、副引用発明の選定、動機付等の論理付けについての検討を行います[※1][※2]。OJ Tや事例研究を通じて、論理付けの具体例など、進歩性についての知識を身に付けた上で、基本的な手順を忠実に守り、正確・丁寧に検討を行うことでスキルが向上するのではないのでしょうか。

(2) 外国文献検索

世界の特許文献において、日本語の特許文献が占める割合が急速に低下しており[※3]、外国文献への対応も必須のスキルとなっています。

特許検索競技大会2017の間1(経過情報の確認)と間3(無効資料調査)で外国文献に関する問題が出題されました。英語、仏語、独語、中国語、韓国語…など、スクリーニングを必ずしも原文で行う必要はなく、場面に応じて、機械翻訳などのツールを駆使すればよいでしょう。言語が日本語ではない以外は、基本はほぼ同じです。基本がしっかりしていれば、恐れる必要はないと思います。

3. 特許検索競技大会を通じたスキルアップ

特許検索競技大会は入念に準備をされた素晴らしい大会です。限られた時間内に回答できるように配慮されつつも、特許調査の「基本」が凝縮されています。

大会における認定や表彰は、結果・目標であって、目的ではありません。大会に参加する真の目的は、サーチャーとしてのスキルアップです。大会の結果に一喜一憂することなく、自らの立ち位置を認識し、フィードバックセミナーを受講して見直しを行い、スキルアップ確認のペースメーカーとして大会に継続的に参加をすることが大切です。

継続は力なり。基本を大切にコツコツ日々の業務に取り組むことで、1日前の自分よりも成長をすることを念頭に、日々研鑽をつむことで自然とスキルが磨かれ、光り輝くのではないのでしょうか。

4. まとめ～特許調査スキルは、武器になる～

特許調査の仕事は、非常に楽しく、わくわくする仕事であると思います。良い文献が見つかった時の爽快感、報告書に対するお褒めの言葉を頂いたときの喜びは、筆舌に尽くしがたいもので

す。

また、特許調査の仕事は、活躍している女性や年配の方も多く、ライフワークバランスを取りやすい、人生100年時代に適した仕事であると考えます。

そして、特許調査のスキルは、武器になります。日本の企業の市場が、国内から海外へと広がっていますが、海外で戦うためには、知財そして特許調査のスキルが重要です。また、知財や特許調査のスキルというのは、企業・組織内においても様々な面で威力を発揮します。スキルを身に付けた人が出世をして、経営に携わることが、今後増えていくと信じています。

私は、大会の最優秀賞受賞者として恥ずかしくないよう、弁理士兼サーチャーとして、クライアントの皆様の方になるために、日々研鑽を重ねています。その一環として、大会に継続的に参加する予定ですので、本寄稿をご覧になった皆様に、お会いできることを楽しみにしています。

【謝辞】

この度は、本寄稿を執筆するご機会を頂き誠にありがとうございました。また、特許検索競技大会の主催者・実行委員会を初めとする、大会運営に携わる全ての方々に厚く御礼を申し上げます。

そして、最優秀賞の受賞は、一人の力でなし得たものではありません。日々の業務でお世話になっているクライアントの皆様、登録調査機関在籍時に御指導を頂いた特許庁の審査官の皆様、調査の手ほどきを頂いた株式会社技術トランスファーサービスの方々、現在所属しております秋山国際特許商標事務所の仲間、私を支えて下さった全ての方々に、心より感謝申し上げます。

【引用文献】

[※1]特許検索競技大会2017 フィードバックセミナーテキスト

[※2]特許庁 特許・実用新案審査基準

[※3]特許庁 特許行政年次報告書2018年版

【表紙(写真)】

左:特許検索競技大会2017

【最優秀賞受賞者】角渕 由英 弁理士

右:特許検索競技大会2017

中村 栄 大会実行委員長

【プロフィール】

角渕 由英(つのぶち よしひで)
秋山国際特許商標事務所
弁理士 特定侵害訴訟代理人
博士(理学)
特許検索競技大会2017最優秀賞受賞
ゴールド認定(化学・医薬分野)



【特許検索競技大会とは】

特許調査能力の客観評価と優秀者及び優秀団体の顕彰等を通して、特許情報業界のすそ野拡大と特許調査に関する技術の普及啓発・向上を促すことにより、我が国のイノベーションの促進に寄与することを目的として開催している大会です。本大会では初心者向けのスチューデントコース(平成29年度に新設)と、上級者向けのアドバンストコースの2コースを設けており、一定レベルの結果を得た方には認定証を交付するほか、アドバンストコースにおいては、特に優秀な成績を収めた方および団体の表彰を行っています。

昨年度の特許検索競技大会2017は、平成29年9月2日(土)に東京・大阪・名古屋・仙台の4会場で同時開催し、スチューデントコースとアドバンストコースを合わせて388名が参加しました。



一般財団法人 工業所有権協力センター
Industrial Property Cooperation Center

〒135-0042 東京都江東区木場一丁目2番15号
深川ギャザリア ウエスト3棟

TEL 03-6665-7877

URL <https://www.ipcc.or.jp>